

# はやぶさ2014シンポジウム開催報告

安部 正真<sup>1</sup>

2014年12月4日から5日にかけて、JAXA相模原キャンパスにて、国際シンポジウムが開催されました。これは昨年10月に開催された第1回宇宙物質科学シンポジウム(はやぶさ2013シンポジウム)に続くものです。

今年のスコープは分光観測による小惑星表面物質推定と数値シミュレーションや理論計算による小惑星の衝突進化とし、招待講演者にPatrick Michel氏、廣井孝弘氏、Thomas Burbine氏、Daniel Scheeres氏をお呼びしました。また科学組織委員会としてRichard Binzel氏、Harold Connolly氏、小島秀康氏、宮本英昭氏にお願いし、プログラム編成や、座長だけでなく、それぞれのご専門の発表をしていただきました(Binzel氏は所用により欠席)。

シンポジウムの日程は、国立極地研究所で開催されている、極域シンポジウムの南極隕石セッションとの連続開催として決めました。これにより、海外からの研究者が1度の来日に関連するシンポジウムの両方に出席できることと、シンポジウム主催者側も招待講演者等の旅費のサポートがしやすいというメリットがありました。実際、本シンポジウムの開催日数が昨年の3日間から1日減って2日としたにも関わらず発表数参加者数ともに前年同様の数(参加者数81名、講演数64件)となりました。

当初はやぶさ2の打ち上げが11月30日と設定され、シンポジウム初日までの間隔が短い状況での開催を覚悟していました。実際には打ち上げ日が2度にわたって変更され、主催者側も出席者側も多少の混乱は有り

ましたが、無事シンポジウム前日の12月3日に打ち上がり、当シンポジウムについては大きなプログラム変更もなく開催することができました。

初日は、科学組織委員会委員長の藤本正樹氏によるトークから開始され、午前中はロゼッタミッションの最新情報の紹介など、小天体探査ミッションに関わる話題を集め、午後からははやぶさ帰還試料の国際公募研究のうち主に年代測定に関わるトーク、その後招待講演による分光分析研究に関わるトークなどがありました。

夜の懇親会は打ち上げ直後のはやぶさ2運用に関わっていた関係者も加わり盛況でした。はやぶさ2打上記念焼酎や南極の水などもふるまわれました。

2日目は、はやぶさ帰還試料によって大いに研究の進んだ宇宙風化の話題でセッションが午前に生まれ、午後は隕石サンプルも含めた物質科学研究の話題、小天体のダイナミクスなどの話題が中心となりました。

本シンポジウムの特徴として、海外からの参加が半数近くあり、リターンサンプル研究を軸とした物質科学研究分野の成果が、惑星科学の他分野の研究者と融合する機会にもなっていることが挙げられます。例として、今回のシンポジウムの発表の中で、はやぶさ帰還試料の分析から得られた、試料に刻まれた様々な年代情報に関する分析結果の発表があり、その結果は、理論的や実験的アプローチによる小天体の形成史や形成後の表層進化の研究に大きな制約や情報をもたらすことになっています。また、学生の参加も前回より増え、最新の研究成果に触れることで、自身の研究に対して多いに刺激になっていると思われます。

1. 宇宙航空研究開発機構  
abe@planeta.sci.isas.jaxa.jp

一点反省点を挙げるとすれば、日程が2日間と短くなったにも関わらず、講演数が前年と変わらなかったため、招待講演を含め講演者の講演時間が短く(一人当たり15分)なってしまったことです。参加者の方からもっと長い時間講演したかった、講演を聞いたかったという声が多くありました。こういった声などについては次回のシンポジウム開催の際に反映していきたいと考えています。

来年も同時期にシンポジウムの開催を計画しています。第3回のはやぶさ帰還試料の国際公募研究の募集が始まっていますが、次回もはやぶさ帰還試料の国際公募研究の成果報告だけにとどまらず、幅広い研究分野の研究者が集まるシンポジウムとすべく、スコープの設定や、科学組織委員会の形成をしていきたいと考えていますので、皆様のさらなる参加をお願いいたします。

## シンポジウムプログラム(セッション名のみ)

### 【2014/12/4 Thu.】

Opening  
Planetary Missions  
Poster Viewing  
Chronology  
Spectroscopy  
Reception Party

### 【2014/12/5 Fri.】

Space weathering and Regolith  
Described for Meteorite and Hayabusa Sample  
Dynamics of asteroids  
Summary and Wrap-Up  
Tour of Curation and Sagamihara Campus

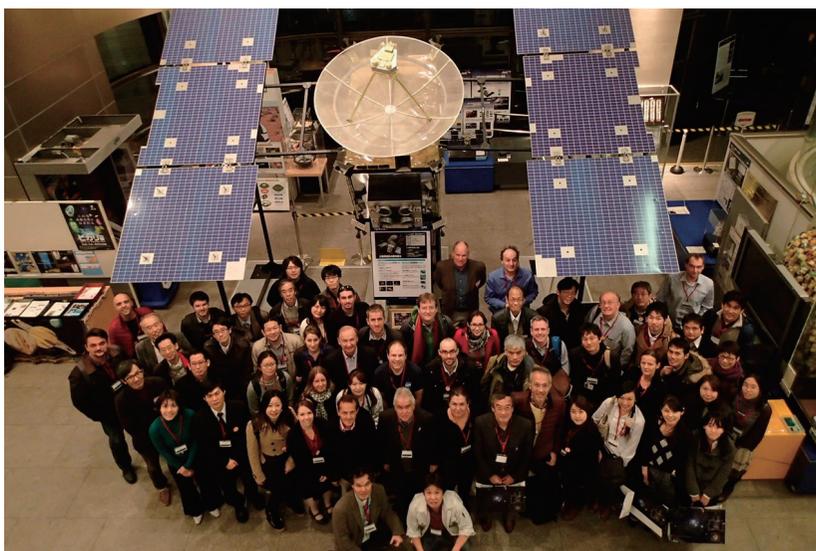


写真1：シンポジウム期間中の集合写真。